

貨物会社「低額ベア」回答へ抗議と要請を！

ベアについては

「昇給前基本給に0.1%を乗じた額(平均300円)+700円」
「シニア社員のベアについては定額1,000円」と回答！

異常な物価高騰の中でも、安全・安定輸送を担う社員の「やる気」を削ぐものでしかない！

「評価による昇給を実施+平均1,000円の上乗せ止まり！」

低額ベアを実施したところで、社員の生活改善には程遠いもの！

3月17日、貨物会社は「2023年4月1日以降の賃金引上げに関する申し入れ」(国労闘争申第7号)への回答として「評価による昇給を実施し、ベアについては「昇給前基本給に定率0.1%(平均300円)を乗じた額+700円を加える」「シニア社員のベアについて定額1,000円を加える」ことを示した。

ここ数年の貨物会社の春闘の動向は、「ベア300円」「ベア200円」の実施や「200円の賃金改善措置」、一昨年は再び「ベア・ゼロ」に逆戻りし、昨年は「基本給に定率0.1%(平均300円)を上乗せしたベア」を実施した。しかし、2000年以降、18年連続の「ベア・ゼロ」を実施してきた経緯の中で、貨物会社は、この10年で300億円以上の利益剰余金を積み増してきており、社員の厳しい生活実態からすればコロナ禍や異常な物価高騰の下で働く社員のモチベーションを削ぐものでしかない。

「労働協約」交渉時での「企業の発展」と「組合員の生活の維持向上」の議論経過から「どちらも重要な課題である」との労使の共通認識から言っても逸脱するものである。

「減収」の理由は、コロナ禍や自然災害と明確な中で「経営課題」を盾に、またしても「社員犠牲」に転嫁したものにしか過ぎず、社員・家族の生活は一層深刻さを増すばかりである。

今回の回答は昨年に続き「有額」回答ではあるものの、「低額ベア回答」としか受け止めることができない。また「率」も併用された今回の回答は、個々の社員の基本給にベア・スアップ額が反映されるため、社員間の「格差」を拡大させ、社員一人ひとりの賃金上昇や生涯賃金にまで影響するものであり、組合が求めてきた「全体の底上げ」ではなく、将来にわたって大きな影響を及ぼすものである。

物価上昇の一方で労働者の実質賃金は年々減少する中、社員・家族の生活改善を実現するには程遠いものであり、到底納得できるものではない！貨物経営陣に対し全職場から「抗議と要請」を！

国労要求13,000円を支払う
経営体力は着実にしている！
設備投資は否定しないが社員への投資も行うべきだ！



「低額ベア回答」への抗議と要請行動
※3月24日(金)まで